

「広報車聞こえない」

名寄市議会 災害対応で改善指摘

【名寄】市議会決算審査特別委員会（東川孝義委員長）は27日、消防費、教育費の歳出審査を行った。

消防費審査で高橋伸典委員（公明）は、胆振東部地震による市内全域の停電について、名寄消防署の電源体制、停電対応を質問。

災害時に回る市広報車の拡声器の音が小さくて聞こえず、「豪雨や水害時はまったく聞こえなくなる」と大きなものへ更新するよう求めた。

佐々木幸雄名寄消防署長は「署は停電と同時に自家発電が動き、6日夜の復電まで業務に支障はなかった」と説明。山下昌之総務部

参事は「災害時はエリ

アメールの活用をはじめさまざまな情報伝達手段を検討する。新しい資料購入は研究しなければならぬ」と答えた。

佐久間誠委員（市民連合・凜風会）は、停電時の消防通報状況や、独居高齢者と固定電話でつながる災害弱者緊急通報システムへの影響を質問した。

佐々木署長は「停電の問い合わせが1件、大きな音がするという通報による警戒出動が1件だったが、被災はなかった。電源確保、燃料の確保も燃料店の協力で優先的にでき

た。課題は連絡手段で、今後研究する」と答弁。同システムについて「電話機の内臓バッテ

リ」を持つ時間は5時間。長期停電で対応できない状況が続いた」と課題を示した。

教育費では山崎真由美委員（市民連合・凜

風会）、川村幸栄委員

（共産）、佐藤靖委員

（市民連合・凜風会）、

塩田昌彦委員（市政ク

ラブ）、山田典幸委員

（市政クラブ）が不登

校児童生徒対策、名寄

市立大学の研究活動の

充実、中学校への学校

司書の配置をただし

た。

文科省の事業終了後

も市教委が継続して市

内中学校に配置してい

る心の教室相談員につ

いて、河合信二教育部

長は「配置している3

つの中学校のうち、1

人が2校を掛け持ちし

ている状態。予算は3

人分持っている。3人

体制を維持したいが、

人材確保が難しい」と

説明した。

大学のコミュニティ

ケア教育研究センター

の特別研究事業の予算

拡大を求められ、大学

事務局は「2016年

度に100万円増額

し、現在は外部資金の

獲得にも力を入れてい

る」と答弁。加藤剛士

市長は「教員の研究活

動は地域貢献のすそ野

を広げ、大学の価値、

地域の価値を高めるた

めに重要だ。大学は特

別会計化されており、

学長のリーダーシップ

で学内議論をしてもら

い、われわれもしっかり

サポートしたい」と

答えた。（吉永雅人）